
開講科目名：国際経済論研究（B）（2単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程 会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：佐藤 純恵

《授業の概要》

【授業の目標】

本講義では、アジア経済の現状を概観し、アジア経済の変化の特徴とその背景を理解できるようにすることを目指します。アジア地域に位置する日本が、周りの国や地域と共生していくには何が必要で何ができるのかを考えていくことを目標とします。

【授業の概要】

第二次大戦後、貧困と停滞を経験したアジアは、1970年以降、工業化と対外開放を進め、「東アジアの奇跡」と呼ばれた経済成長を実現してきました。その後、アジア域内の経済と人々の暮らしは急激に変化し、今も変化し続けています。本講義では、アジア経済の現状を概観したのち、経済発展、工業化、労働移動、人口問題、貧困問題、開発協力等について学びます。

【評価方法】

参加姿勢（10%）、講義期間中に実施する小テストまたは小レポート（20%）、期末試験（70%）で評価します。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 戦後のアジア：停滞するアジアから成長するアジアへ
- 第3回 1993年～2000年：「東アジアの奇跡」からアジア金融危機へ
- 第4回 2001年以降：中国の台頭と新興アジア経済へ
- 第5回 域内貿易と経済統合の進展
- 第6回 改革開放と経済大国・中国の登場
- 第7回 アジアの工業化と地場企業の発展
- 第8回 国際労働移動
- 第9回 アジアの経済成長
- 第10回 アジアの経済発展と都市化
- 第11回 人口増加と経済成長
- 第12回 人口高齢化と社会保障
- 第13回 貧困から格差へ
- 第14回 経済発展と環境問題
- 第15回 開発協力

定期試験を実施する。

《テキスト》

特定のテキストは利用しないが、以下の参考書を読誦しておくことが期待される。

《参考書》

遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太（編）『現代アジア経済論―「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣，2018年
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣，1997年
渡辺利夫（編）『アジア経済読本（第4版）』東洋経済新報社，2009年
その他、授業中に適宜指示します。